

# 医療に対する公費負担増を！

## 区議団が医師会と懇談



医師会役員と懇談する区議団。あぜ上都議、小池参院議員も参加。

日本共産党区議団は3月10日、小池あきら参院議員、あぜ上三和子都議とともに江東区医師会を訪ね、井上仁会長はじめ役員の方々と懇談しました。

### 診療報酬の引き上げを

小池あきら参院議員は新政権が行った診療報酬改定が実質ゼロ改定で医療の危機を打開するものになっていないと指摘。「診療所と病院の双方が改善を実感できる診療報酬の大幅引き上げが必要」と強調。あわせて高い窓口負担と国民健康保険料の引き下げ、後期高齢者医療制度の即時廃止を求める日本共産党の医療政策を語りました。

### 75歳以上の医療費無料化にも期待！

井上会長は「おっしゃる事はすごくいいことだ。75歳以上の医療費無料化も頑張っている」と歓迎。後期高齢者医療保険料の大幅値上げの中止と国庫補助の増額などを求め、教育問題では全国学力テストの全道参加の中止や就学援助の対象にめがねを加えるよう求めました。

### 予防接種・ガン対策など区独自の助成制度を



区議団は新型インフルエンザや肺炎球菌(高齢者用)の予防接種に対して区独自に助成するよう求めてきたことを紹介しました。

ほしい。期待している」とあざつしました。江東区医師会が役員会で特定政党支持を辞めると決めたことを紹介しました。各役員から医療費に対する公費負担を増やすべきとの考えが示されました。

## 区議会報告

2月24日、今区議会初の本会議で、日本共産党のきくち区議は、深刻な区民の実態を示し、現状打開に向けた区の役割の重要性を指摘。

不安定雇用を拡大する民間委託の中止と人口増に見合う正規職員の採用、区内事業者への支援強化や職を失った人の住宅・生活支援の拡充、仕事の確保などを求めました。正保区議は後期高齢者医療制度のすみやかな廃止を国に求めるべきとし、国民健康保険料、

今定例会には21年度最終補正予算、22年度一般・特別会計予算など全部で39本の議案が提出され、予算審査を通じて木造住宅耐震化工事の補助が上限150万円に引き上げられるなど耐震化助成の拡充が明らかになりました。しかし一方で、こう着状態の

地下鉄8号線、11号線の建設促進を理由にした5億円積立金を創設しました。また政府債などに比べ銀行借入れ並の高い金利のミニ区債を5億円を発行、一部の富裕な区民に利益をもたらす不公平な税金の使い方は許されません。共産党が予算修正案提出専らし支える予算に



3・12重税反対江東区民集会  
江東区民センターで集会後デモ行進



「2・22怒りの江東区民集会」  
東陽公園、大島5丁目公園で開催

## 平和・くらし守れと集会

介しました。医師会は親が安心して働き、子育てができるように「Hiibワクチンや子どもの肺炎球菌ワクチンにも区独自助成制度をぜひ作ってほしい」「子宮頸がんワクチンについても区独自の助成制度をつくり、できるだけ多くの人が受けられるようにして欲しい」と意見が出されました。



2月19日、森下文化センターで集い

### 墨東病院は都立のまま、医療の充実を

また地域医療をめぐる現状について「中小病院の経営は本当に大変で、療養型、慢性期治療をやる病院がなくなる」

「出産費用を保険から受け取る制度にすると、現状では支払いが2ヶ月以上遅くなるため、経営が成り立たない」との現状が語られました。さらに区の豊洲への「昭和大学病院」誘致について意見交換し、懇談しました。

## 期間

唯一の被爆国なのに信じられない日米「核密約」の存在が、アメリカの解禁文書によって明らかになりました。非核三原則の掲唱で74年にノーベル賞を受賞した佐藤首相は、「持ち込ませず」といったのを後悔していたといわれています▼この密約は60年安保改定の直前に藤山外相とマンカーサー大使の署名で両国政府の公式協定となります。79年、不破さんが岩国・普天間基地の核兵器要員の名簿をもとに、核兵器の持ちこみと貯蔵について国会で追及しています。2000年には小淵、森首相に当時の「討論記録」を示して質問しますが、「政府が関与していない」の答弁が繰り返されました▼今回はその資料について岡田外相が「有識者委員会」の報告書を公表しました。しかし、「核搭載艦船が事前協議なしの寄港を続けたと推定される」と認められたものの、「日米間の認識の不一致があった」として両者が合意した密約ではないなどと結論。核抑止力に依存する従来の敵対と対立立場に立ち、密約を廃棄するためにアメリカと交渉することを避けたい意図が見え透っています▼5月3日からニューヨークでNPT(核不拡散条約)再検討会議が始まります。「東京大空襲を語り継ぐ会」では高校生が派遣費用のカンパを訴えています。江東からも参加者が名乗り出ています。

# 平和・くらし風土記 46

## 女工哀史と細井和喜蔵

主として大正期の紡績・織布工場で働く女子労働者の労働と生活を記録した女工哀史は、1925年（大正14年）、細井和喜蔵自身の経験と妻としおの紡績女工としての体験をもとにして書かれました。

和喜蔵は1897年に京都に生まれ、小学校中退で織物工場の小僧となり、1920年に上京して東京モスリン糸戸工場に入社しました。25歳で同じ職場の女工堀としをと結婚、モスリン争議で組合をつくるなど活動しましたが、病気で退職し女工哀史を執筆しました。

女工哀史は19の章で書かれ、「労働条件」「工場に於ける女工虐待」「病人、死者の残虐」「女工の心理」「生理並びに病理的諸現象」「紡績工の思想」など多岐にわたっています。

また女工小唄★には、貧困、過酷な労働、夢など、当時の女工の気持がよく現れています。妻としをは当時の二人の生活を、「ごはんをたべている間もずうっと考えて、何か思いついたらパツとはしをおいて立ち上がり、原稿をもってきて、『今日、書いたところ、どゆるな、まちがってへんだろうか、これでいいやろか』といて、もう、四六時中、原稿のことを考えていたようです」（「わたしの『女工哀史』」）と語っています。

女工哀史は資本の搾取、抑圧に対する告発の書として労働運動にも大きな影響を与えました。

和喜蔵は女工哀史出版直後の1925年8月、28歳の若さで糸戸博愛病院で病死しました。女工哀史の印税は、紡績や製糸産業の労働者解故事業の資金となり、また1936年、細井和喜蔵遺志会により「無名戦士の墓」が青山墓地に建立されました。

★女工小唄「工場は地獄よ主任が鬼で 廻る運転火の車」「うちが貧乏で12の時に 売られて来ました此の会社」「今はこうして女工すれど 来年見やんせやや抱いて 意気な小意気なまさんと 新こん旅行をしてみせる」などと唄われていました。



細井和喜蔵著「女工哀史」表紙（初版）一部加工

# 東京大空襲を語り継ぐつどい

東京大空襲65年「記録する会」40年の歴史を刻んで



3月6日、小雨の降りしきるなかカメリアホールでは、「東京大空襲を語り継ぐつどい」が開催されました。45年3月10日から65年、「記録する会」40年の節目となるこのつどいに、440人余が参加しました。

つどいは堀吉美代さん（合唱団この灯）の指揮による東京大空襲を歌う合唱団と作詞者の高岡幸郷さんの朗読を交えた「いま、この街に生きている君たち」と、戦災資料センター開設に寄せられた「タンポポの歌」で開会しました。

第一部の初めに空襲体験を語ったのは、ある出会いから東京大空襲訴訟の原告団に加わった戦災孤児の草野和子さん。「美観を損なう」と犬猫のように扱われ、

戦場ではなかった……と花森安治の詩「戦場」を朗読しました。最後は早乙女館長の「この日 この時」。40年前に革新都政の下で「東京空襲を記録する会」を立ち上げた経過を述べ、民立民営のセンター開設以来8万3千人が訪れて、戦争を知らない小・中学生も平和の大切さを学んでいると、感想文の一部を紹介しました。そして、直接的な語り継ぎが限界に近づいたいま、東京で唯一のセンターの意義は大きいと、センターの維持、発展のための一層の協力を訴えました。

開会の挨拶は、都教組の児玉洋介委員長でした。

差別やセクハラに苦しんだ実態に、会場からも嘸り泣きの声があがりました。夫、子、母を一夜で失った鎌田十六（トム）さんがビデオ「97才の証言」で映像出演しました。

つどいは乾杯に続く、音大生のバイオリン演奏、石橋と「この灯」合唱団、南京玉すだれ、「飯工船」のソーラン節など、多彩な出演に盛り上がり、参加16団体代表や個人の紹介と一言のあと、京谷代表世話人の挨拶で閉会しました。

## 江東革新懇総会・新春のつどい

### 「国民が声をあげれば 政治が変わる」

つどいは乾杯に続く、音大生のバイオリン演奏、石橋と「この灯」合唱団、南京玉すだれ、「飯工船」のソーラン節など、多彩な出演に盛り上がり、参加16団体代表や個人の紹介と一言のあと、京谷代表世話人の挨拶で閉会しました。



## 「あひるを待たせぬべし」上映会開催！

上映実行委員会 青柳洋二（寄稿）



監督 宮崎 裕子

3月11日、江東文化センター展示室で江東革新懇総会・新春のつどいが開催され、100人余が参加。くらし、平和と民主主義を守る革新三目標を掲げ、広範な区民との共同をめざす運動を再開して3回目の総会です。

3月12日夜、江東文化センター展示室で江東革新懇総会・新春のつどいが開催され、100人余が参加。くらし、平和と民主主義を守る革新三目標を掲げ、広範な区民との共同をめざす運動を再開して3回目の総会です。

総会は勝俣都教組江東支部長を議長としてすすめる。田村事務局長が経過報告と活動方針、役員体制を提案して、全員一致で承認。「国民が声をあげれば政治が変わる」確信をもって、鳩山政権の迷走や逆行を許さないために革新懇の出番が強調されました。

## 4・5月の行事案内

- 4月5日（月）19時、日本の青空（Ⅱ）いのちの山河試写会 江東土建会館
- 4月8日（木）19時 日本共産党演説会 江東文化センター
- 4月18日（日）13時、商店街宣伝、なんでも相談会（前仲町商店街）大運動実行委員会
- 5月4日（火）13時半 合唱団「この灯」演奏会 ティアラ江東